



CITY TABERNACLE BAPTIST CHURCH

Brisbane, Australia – www.CityTabernacle.com

SERMON TRANSCRIPT

Preacher: Rev Glenn Brodie

Date: Sunday AM, 28 September 2025

Scriptures: [Ephesians 3:1-13](#)

Title: “God’s Mystery Revealed in the Church”

Translated to (*from English speaker*): Japanese

Voice-to-Text AI transcription from Church Sermon recording.

さて皆さん、主が御言葉を通して何を語っておられるかを見る前に、主の祝福と啓示を祈りましょう。さて、父なる神よ、私たちはあなたの御言葉に感謝します。主よ、それは私たちにとってかけがえのない宝です。キリストにはまだ学ぶべきことがたくさんありますが、神よ、あなたの御言葉には、イエス様がどのような方であるか、そしてイエス様が私たちにとってどのような存在であり、どのような存在になるかについて、あなたが私たちに与えてくださったことがたくさんあります。ですから今朝、あなたが私たちに与えてくださったこの豊かな聖句を、深く考え、理解し、従うために、イエス様の御名によってお祈りいたします。

アーメン。2025年に「ミステリー」という言葉を口にしたら、ほとんどの人は未解決の事件を連想するでしょう。特に殺人ミステリーを思い浮かべます。ポアロはよく見ているようですし、ミス・マーブルズなどもそうです。皆さんも同じように見ているかもしれませんね。あの消息を絶ったMH370便に何が起きたのかという謎も。

確かなことは分かりませんが、様々な説がありますが、それは謎であり、解明されるべきものです。しかし、パウロの時代において、謎は全く異なる意味を持っていました。特にエフェソスや、宗教の渦巻く、いわば火鍋のような都市では、秘儀宗教、あるいは秘密宗教と呼ばれるものが存在し、特にパウロの時代における主要な秘儀宗教はエレウシス信仰でした。

それは女神デメテル（DEMETER、デメテル）の崇拝を中心に行われました。彼女は豊穡と永遠の再生と生命の女神でした。彼女はハデスに誘拐され冥界へ連れ去られ、娘を失い、9日間もの間探し続けたと伝えられています。

そして、彼女が冥府から発見され、いわば蘇りを果たした今、人々は彼女を称える祭りを毎年催すようになった。偶然にも、それは毎年この時期、9月下旬から10月上旬に行われる。デメテルの秘密を知る候補者になりたい者は、9日間の祭りに参加し、アテネからエレウシスという小さな町まで24キロを歩き、そこでいくつかの犠牲を払うことになる。

儀式的な浄化、いわば洗礼のようなものが彼らにはありました。犠牲を捧げ、断食などを経て、9日目には候補者としてデメテルの秘密に導かれる準備が整いました。しかし、それは候補者だけのためのもので、デメテルの聖職者たちが彼らに秘儀を授けたのです。

それが何だったのか、私たちには分かりません。なぜなら、候補者がそれらの秘密、あるいはデメテルの神秘を漏らすと死刑に処せられる罪だったからです。漏らせば命を落とすことになります。ですから、これらの神秘が実際には何だったのか、私たちには分からないのです。

10日目には、デメテルの信奉者としてアテネへ歩いて戻りました。こうして、様々な神秘宗教が渦巻く状況が生まれました。中でもデメテルは、群を抜いて最も人気があり、最大の宗教でした。

現代にもそういったものがいくつかあるようです。フリーメイソンには秘密の儀式や儀礼などがあり、入会希望者はその秘密を知る必要があります。そして、ヒラムやアビフなどの死と生に通じる洗礼を受けます。

そして彼らは、フリーメイソンの秘密を漏らしたら恐ろしい死を招く、といったようなことを言います。それは第三レベルまで行った場合です。だから、今日でもこのようなミステリーカルトが存在しているのです。

さて、この箇所には「神秘」や「秘密」という言葉が4回出てきます。しかし、パウロの時代に広まっていたミステリーカルトとは全く異なる意味を持っています。パウロが、あるいは他の使徒たちが説教をする際に、哲学的あるいは宗教的な空虚さに陥るような説教をすることは決してなかった、というのは常に心に留めておきたいことです。

先週見てきた神殿のるつぼと神秘宗教のこの時代の背景を知ることは重要です。タルソス出身のローマ人ユダヤ人が福音を説き、宗教の中心地の一つであるエフェソに手紙を書き、彼もまた神秘について語っています。しかし、その意味は少し異なります。エフェソ人への手紙では6回、この箇所では4回、この言葉が使われています。

新約聖書には27回、そのうち4回は黙示録で、パウロはそのうち20回使用しています。残りの3回については後ほど詳しく見ていきます。しかし、新約聖書の中で神秘について語っているのは、エフェソ人への手紙が断然トップです。エフェソがその震源地であることを考えると、それも当然です。パウロは読者に、神と福音には

、人生をかけて信じることができる神秘や真理があり、異邦人である非ユダヤ人の信者の一部が信じていたであろう神話とは対照的であることを、意図的に理解させようとしたのです。

彼らは秘儀宗教を容易に理解するでしょう。なぜなら、彼らの中にはかつてその一部であった者がいたからです。しかし今、彼らは神の秘儀の下にいます。これは全く異なるものです。聖書における秘儀とは、神の隠された計画、神のみが知る秘密の知恵であり、神がそれを明らかにし、そして神が御霊を通して誰かに明らかにすることによってのみ、その秘儀を知ることができるのです。パウロがここで言っているのはまさにこれです。

聖書を開いて、ご覧になってみてください。今日はこの箇所を取り上げます。2節には、あなた方のために私に与えられた神の恵みの執行について、確かに聞いたことがあるでしょう、とあります。これは、私がすでに簡単に書き記したように、啓示によって私に知らされた奥義です。そして5節には、それは他の世代の人々に知らされていなかったが、今、聖霊によって神の聖なる使徒と預言者に啓示されたものである、とあります。

ですから、これは神のタイミング、神の秘められた知恵によるものであり、聖霊が定められた時に使徒パウロに明らかにするまで、誰も知りませんでした。言い換えれば、これは彼が旧約聖書を何時間もかけて一生懸命研究した結果得られた神秘ではありませんでした。イザヤ書を読んでいて、突然「なるほど、ユダヤ人と異邦人は一つの体となるのだ」と悟ったわけでもありません。

いいえ、その兆候はありました。なぜなら、イエスはこの特別な神秘についてこう言っているからです。6節を見てください。この神秘とは、福音を通して異邦人がイスラエルと共に相続人となり、共に構成員となり、共にイエス・キリストにおける約束にあずかる者となるということです。言い換えれば、旧約聖書、例えばイザ

ヤ書にも、イスラエルが異邦人を照らす光となることが兆候として見られました。数週間前に神殿の複合施設を見ました。異邦人の庭があり、イエスは「わたしの家はすべての民のための祈りの家となる」と言われました。

しかし、異邦人への証しがあったにもかかわらず、彼らがユダヤ人と共に神の国に完全に参加するというこの出来事は、旧約聖書から私たちが理解する能力をはるかに超えるものでした。神は御霊によってそれを明らかにしなければなりませんでした。パウロがここで言っているのはまさにそのことです。この神秘は、私たちが1章で見てきたより大きな神秘の一部なのです。

例えば9節と10節を見てみると、パウロは第一章でこう言っています。「神は御旨の奥義を私たちに知らせてくださいました。これは、神がキリストにおいて定めた、御旨の奥義が、時が満ちた時に実現されることを、彼が初めて明らかにした箇所です。」ここに奥義があります。それは、天にあるもの地にあるものすべてを、キリストという一つの頭の下に一つにすることです。第三章では、私たちは共に分かち合う者、共に肢体であり、共に相続人である、この一体感の一致は、神が天と地の間にもたらすより大きな一致の一部なのです。

なぜなら、天と地は今、互いに争っているからです。私たちは罪と、神の罪への憎しみによって不和に陥っています。ですから、天と地、諸国間の不和、人類と自然の間の不和が存在しているのです。

この地球には、自然界、大気、そしてその他あらゆる出来事において呪いがかかっています。そして神は、この混沌と裁きのすべてから統一をもたらし、その軌跡が成就するのを黙示録21章と22章で見ることができます。そこで神、あるいは天使は、「今や神の住まいは人と共にある」と語っています。ですから、神秘はそこへ向かっているのです。

教会として、私たちは福音の最終目標が天と地の再統合にあることを、私たちの文化に示す役割を果たしています。だからこそ、教会において一致が重要な課題であり、数週間前に「唯一重要な血統はキリストの血によって生まれ変わる事」とお話ししたのです。さて、今朝は皆さんに2つの点について見ていただきたいと思います。

この神秘は2025年の私たちとどのような関係があり、神はそこで何を印象づけたいのでしょうか？2つの点についてお話ししたいと思います。1つ目は、神の神秘は知ることができ、したがって信頼できるということです。秘儀宗教の本質は、いわゆる深遠な真理は、その神秘が何であるかを公表した場合にのみ、死刑を宣告されたデメテルの候補者、信奉者、献身者だけが知ることができるというものでした。

そのため、デメテルの秘儀については誰にも情報がありませんでした。しかし、神は全く正反対です。神は秘密と計画を持っており、それを明らかにするときは、それを公に知らせたいのです。

もはや秘密ではなくなりました。3章をもう一度読んで、8節と9節を見てください。パウロはこう言っています。「私は神の民の中で最も小さい者ですが、この恵みが与えられました。この恵みとは、キリストの計り知れない富を異邦人に宣べ伝え、万物を創造された神の中に世々隠されていたこの奥義の執行を、すべての人に明らかにすることです。」

ですから、パウロは、一度啓示されたこれらの奥義は、もはや秘密ではなくなり、必ず知られることを理解していました。奥義という言葉と共に、啓示という言葉が出てくるのは、洞察に富んでいます。3節には、「この奥義は啓示によってわたしに知らされた」とあります。

聖書には、啓示を表すギリシャ語の言葉がいくつかあります。その一つが「アポカリプシス」で、これは「黙示録的な」という意味になります。通常、「黙示録的な」という言葉は世界の終わりを思い浮かべますが、「アポカリプシス」という言葉は、隠されたものを明らかにするという意味です。

まるで神が幕を開けたかのようです。パウロ、そしてヨハネの黙示録はまさに黙示録であり、そこから啓示が始まります。神からのイエス・キリストの黙示録です。隠されていたものが今明らかにされたのです。だからこそ、天で何が起こっているのかという啓示には、神が明らかにしない限り私たちには分からないことがたくさん詰まっているのです。少し前に私たちは「神は神、神秘を明らかにする者」という歌を歌いました。

それはどこから来ているのでしょうか？ダニエル書第2章です。数年前にダニエル書を勉強したのを覚えていますか？ダニエル書第2章で、ネブカデネザル王は夢を見て非常に悩み、王の知者や魔術師たちを皆集めて言いました。「私は悩ましい夢を見ました。その夢の内容をあなたたちに話すつもりはありません。あなたたちが私にその夢を話し、その解釈をしてくれなければなりません。もしそうしなければ、あなたたち全員を殺してしまうでしょう。」そうしたらどんなに幸せな朝になったことでしょう！ダニエルは3人の友人と共にこれを聞き、そこにいる番兵に「今夜だけ待て。神に祈りを捧げれば、ネブカデネザルのために何かできるだろう」と言います。さて、神はその夢の内容とその解釈を明らかにし、ダニエルはネブカドネザルのもとへ行き、次の言葉を告げます。賢者、呪術師、魔術師、占い師は誰も、王が尋ねた謎を王に説明することはできないが、天には謎を明らかにする神がおり、その神がネブカドネザル王に、これから起こることを示したのです。それはあの巨大な像です。金の頭はバビロン、銀の櫃はペルシャ、腹と腿は青銅でギリシャ人、脚と足は鉄と半焼粘土でできており、足も同様に、やがて来るローマ帝国を思い

起こさせます。そして、人の手で切り出されたのではない岩が来て像を倒し、山となって全世界を覆い、やがて来るイエスの王国となることを思い出してください。

神が幕を開け、隠されていたものを明らかにしてくださらない限り、A、夢の内容、B、その意味について、誰も結論を導き出すことはできません。ダニエル書の中で、そのような出来事が何度も起こりました。ですから、神は人々に知られたいと願っています。神は神秘を明らかにする方です。死を覚悟してまでも、神秘を隠されたままにしておくことを望んでおられるのではなく、人々に神を見て、神を知り、そして神を信頼してもらいたいと願っておられるのです。神の真理を知るだけでは十分ではありません。それに基づいて行動し、神の道を歩むために、人生を捧げることが必要なのです。

聖書について私たちが抱く大きな確信の一つは、聖書の真実性です。もしあなたが難しい言葉にこだわるなら、「無謬性」こそが、それを表わす神学的な言葉です。スクラブルでそれが何をもたらすかは分かりませんが、試してみる価値はあるでしょう。

聖書の著者には40人の人間がいますが、パウロもその一人です。しかし、すべてを統括しているのは聖霊です。パウロがここで行っているのはまさに聖霊の働きです。聖霊は私にこれらの奥義を啓示し、それらは聖書となりました。ですから、神は啓示されることを望んでいるだけでなく、信頼されることも望んでおられます。そして聖霊、聖霊の靈感は、これが生きた言葉であり、他の多くの宗教文書のような空虚なものではなく、私たちが理解する上で極めて重要なのです。

使徒ペテロは、そこでの聖霊の働きについてこう語っています。「『何よりもまず、聖書の預言は、預言者自身の解釈によって生じたものではないということを、よく理解しておかなければなりません。預言は決して人間の意志から出たものではなく、預言者たちは人間でありながら、聖霊に導かれて神からのことを語ったのです

。』」19節でペテロは神の御子イエスの言葉を語り、私たちはその証人となりました。変容の山で、私たちは全能の神、父なる神の言葉を聞きました。私たちはそこにいて、神の言葉を聞きました。そして、それは今も語り続けておられます。

聖書は神の靈感によって書かれたものであり、神の息吹が込められていることを保証しています。旧約聖書のヘブライ語「ruach」と新約聖書のギリシャ語「ruach」はどちらも霊または息吹を意味し、興味深いのは、神の息吹とは神の霊であり、これは神の息吹、つまり神がどのような方であるか、そして神が何を成し遂げ、何を成し遂げようとしているかについての私たちへの霊的な啓示です。だからこそ私たちは聖書に永遠を賭けることができるのです。聖書は真実ですから。私たちの文化ではしばしば「なぜ聖書の教えに人生を賭けるのか」という反論がありますが、聖書は老人がでっち上げたものではありません。聖書は聖霊によって啓示された神の深遠な教えであり、それゆえに信頼できるのです。

例えば、この箇所は1節と13節で挟まれているのはそのためです。パウロは何をしているのか？彼はこれらの奥義を説く者であり、そのために獄中にあるのです。1節を見てください。「このため、私はパウロであり、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっています。」それから、彼は人間らしくないほど気を散らされ、次の12節もすべて一つの文になっています。ギリシャ語ではすべてが一つの文で、13節で「ですから、私はあなた方にお願いします。私があるがたのために受けた苦しさゆえに、落胆しないでください。それはあなたがたの栄光なのです。」と締めくくっています。

彼は今、ローマで軟禁状態にあり、皇帝に上訴しています。ユダヤ人たちが彼を追いかけて、排除しようとしているからです。つまり、彼は皇帝に上訴しているわけですが、実際には、8節で彼が言うように、キリストの奥義、キリストの計り知れない富を宣べ伝えるために、彼はローマにいます。ですから、パウロは信仰のた

めに苦しむことを厭わないのです。私は、神が御霊によって私に明らかにしてくださったことの真実性を知っているので、自分の人生をキリストに委ねることができます。キリストが栄光のうちに恵みによって私に与えてくださるものを失うことはない知っているからです。だからこそ、私たちはイエスのために自信を持って命を捧げることができるのです。聖書を読んで主イエスの手に命を委ね、「あなたの王国のため、あなたの栄光のために、私をあなたの御心のままにしてください」と言うとき、私たちは愚か者ではないのです。私たちは、イエスが今私たちのためにしてくださると言われたことだけでなく、イエスが再び来られ、私たちが顔と顔を合わせてお会いするときに、さらに大きなことをしてくださると聖書が語っていることを真剣に受け止めているので、生ける希望を持っているのです。

神の奥義、神の言葉は、私たちが神を知り、礼拝できるように、神がご自身を私たちに啓示してくださったものであるため、信頼することができます。ですから、神の奥義はすべての人が見、読み、知ることができるように存在しています。そして、それらは神の奥義、神の言葉であるがゆえに、神を信頼することができるのです。第二に、そして最後の点は、神の奥義を知る特権、神の奥義を知る特権です。

この箇所の興味深い点は、パウロが説教者としての自己認識を明らかにしている箇所の一つであるということです。このことについては多くのことが語られており、だからこそ彼は脱線します。彼は14節から3章の終わりまでの祈りについて語り始めようとしており、マイケルが来週その説教をする予定ですが、パウロは1節の後で突然話を変え、使徒、説教者、そして聖書筆者としてのパウロの役割を彼らが理解していることを確認しようとしています。彼はこう言います。「あなた方のために私に与えられた神の恵みの執行について、あなた方は確かに聞いたことがあるでしょう」。彼がそれについて語る様子は興味深いものです。

パウロは、「私があなた方への説教者として召されたことを、あなた方は確かに聞いたことでしょう」とは言いません。彼は「私は管理者です」と言っています。文字通りには「神の恵みの家政婦」という言葉が使われ、特にここでの神の恵みとは、神が御霊によって明らかにされた奥義です。私は神が私に明らかにされたことの管理者です。なぜなら、それは私だけのものではなく、あなた方のためであり、神はこの管理、つまりご自身が持つ特権を真剣に受け止めておられるからです。8節と9節を見てください。「私は神の民の中で最も小さい者ですが、異邦人に宣べ伝えるために、この恵みが私に与えられました」とパウロは言っています。

では、なぜ彼はそんなことを言ったのでしょうか。それは、パウロがかつてパリサイ人サウロであり、教会を迫害し、祭司長たちから手紙を受け取って、クリスチャンを殺害したり、殺させたり、投獄したりしていたからです。そして、ダマスコに向かっているとき、まさにそれをしようとしていたとき、主が彼の人生に介入し、サウロは馬から落ちましたが、そこで改心して使徒パウロになったのです。その時、神が期待していたのは、この最も小さい者を神が取り上げ、神の秘密が明らかにされる者とするということです。パウロは9節で、これは私がすべての人に明らかにしなければならない偉大な管理の務めである、と言っています。それは、昔の人々が知らなかったが、今は私たちが知っているこの奥義の管理のことです。ここに特権があります。これらのことを調べたいと切望していた人たちがいましたが、神が自分に都合の良い時までそれを自分の計画の中に閉じ込めておられたため、調べることはできませんでした。そして今、パウロには祝福と特権があり、神の言葉を説教することは特権です。なぜなら、私たちはありふれたことについて話しているのではなく、神が「私についてこれを知ってほしい、私が誰であるか、そして私があなたと永遠に何をするかについて私を信頼してほしい」と言っている、神の非常に深い心の問題について話しているからです。

しかし、説教者としての私たちの責務であるだけでなく、神の御言葉、つまり神の秘密が私たちに啓示されることは、すべての信者にとっての特権です。新約聖書には神秘が27回用いられていると申し上げました。使徒ヨハネは黙示録で4回、パウロは20回、残りの3回はマタイ、マルコ、ルカにあります。これらは同じ出来事であり、ここで語っているのはイエスです。それは四つの土のたとえ話です。神の御言葉は農夫が撒いた種のようなもので、固い土、浅い土、あるいはこの世の悩みであるイバラやアザミに覆われた土に蒔かれました。しかし、良い土には30倍、60倍、あるいは100倍の収穫がありました。その後、ルカの記述でイエスは「聞く耳のある者は聞きなさい」と言い、聞き分け、識別する責任を彼らに託しました。しかしその後、弟子たちがやって来て、ルカの記述では再び、弟子たちがイエスに個人的に会い、その中の一人が、イエス様はなぜ人々にたとえ話で話されるのか、と尋ねます。なぜ人々にたとえ話で話されるのですか。というのは、弟子たちでさえほとんどの場合理解していなかったからです。マタイの記述には最も詳細な記述があり、マタイの13章で、イエスは次のように言っています。11節で、イエスは答えました。「天の国の奥義に関する知識はあなたがたに与えられているが、彼らには与えられていないからである。」そして16節で、イエスは弟子たちが持つ特権について繰り返し述べています。「あなたがたの目は見えているので幸いです。あなたがたの耳は聞いているのです。まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人は、あなたがたが見ているものを見たいと切望していましたが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたいと切望していましたが、聞くことができませんでした。」

さて、私たちは、神はすべての人が読んで見て聞けるようにその奥義を明らかにしたいと望んでいるという点について、先ほど説明を終えましたが、その奥義の中で、あえてその言葉を使ってもいいでしょうか、数週間前に予定説と、一見矛盾しているように見えるこの2つのものの奥義について検討したことを思い出してください。この2つは、敵対するものではありませんが、神の主権と人間の責任の味方で

す。この2つがどのように交差するのかという奥義があり、それでもなおそこに存在しているのです。この2つがどのようにして存在しているかについては、次の節で十分な証拠を見てきました。そしてここでイエスは、一方では「確かにそれはふりかけられ、識別する働きがあるから、私はたとえ話で話すのです」と言っていますが、他方では、たとえ話の真実は、それがあなた方に啓示されない限り、識別することはできないでしょう。そしてイエスは、今日の私たちの目的のために、特に11節で、「天の王国の奥義に関する知識はあなた方に与えられており、誰もがそれを持てるわけではない」ということを強調しています。聖書を持つことは特権ですが、聖書が読まれ、私たちの内に働きかけ、礼拝と従順を通して実践されることも特権です。イエスは、すべての耳が聞けるわけではない、すべての目が見て読めるわけではない、と語っています。神の神秘を伝えるのは私たちの務めですが、聖霊が内住し、神の言葉への洞察を与えてくださるのは、私たちにとって大きな特権です。

皆さんに聖文を読んで、それを私の魂と皆さんの魂が必要とする生きた糧としてください。イエスは、私たちがこれを持っていることは特権だと言われました。パウロも同じように、これらの奥義は過去に閉じ込められていたが、今になって初めて私たちがそれを知るようになった、それを知ることはなんと特権なことか、と言っています。そしてパウロは、まさにこの特権を強調し、天使でさえこれらのことすべてを知っているわけではない、と述べています。

10節をご覧ください。神の意図は、今や教会を通して、神の豊かな知恵が天の支配者や権威者に明らかにされることでした。これは、神が私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた永遠のご計画に倣うものです。私たちの救いについて、ペテロの手紙一第1章でペテロは、預言者たちがこれらのことを深く考察したことを、そして天使たちでさえこれらのことを深く考察したことを語っています。今は新しい契約の中にいるという、特別な時です。

天国に講堂があって、神が毎週天使たちにその週に何をするかを講義するわけではありません。神がこれから行うすべてのことを記した巨大な本也没有ありません。天使たちはどこからその教えを得るのでしょうか？彼らは教会を見ます。神はご自身を明らかにされる際に、この恵みの多面的な知恵を示されます。天使たちは、神が世界中でキリストの花嫁を通して何をしようとしているのかを知りたいなら、教会を見ます。そして、リバイバルが起こっている場所を見て、神を賛美し、すべての罪人が悔い改める時、彼らは喜ぶのです。ルカによる福音書15章でイエスはこう言っています。

私たちは天使のことを忘れがちですが、天使たちは罪人が信仰を持つようになると喜びます。彼らはまた、迫害されている教会や世界中の霊的な暗黒地帯にいる聖徒たちに仕える必要がある場所、そしてそこで天使たちが果たしている働きをも見ています。もし彼らが、神が人々の人生で何をなさっているかを知りたいと思うなら、神が教会の敵であるサウロのような者を選び、その人生を異邦人への主要な使徒へと変えられたことに、きっと衝撃を受ける人がいるでしょう。

神が今日誰を変えようとしているのか、想像もつかない、と一部の人たちは言っています。神の恵みによって完全に換えられ、神の王国の継承者になるなどという、卑劣な男や女をあなたは信じないでしょう。天使たちは神が何をしようとしているのか、何をしているのかを学び、見ています。悪魔たちも、救われるすべての罪人とともに、敗北したカルバリーの記憶を思い起こし、すべての教会が一致して喜びに満ちているのとともに、天と地が再び一つになる日が、そして彼らが火の池で裁かれる日が間もなく来ることを知っています。

天使たちが喜びに浸る中、悪魔たちは教会を通して多くのことを学んでいます。今日、聖徒たちが集まっているこの場所に天使たちがいることを忘れてはなりません。彼らは私たちの教会について何を学んでいるのでしょうか？教会は私たちだけの

ものではありません。先週、生ける神殿は聖霊の聖なる住まいであることを学びました。

すべては神中心でした。今、パウロは天の存在たちを連れて来ます。これは私たちだけのことではないのです。

神の神秘を知り、それを受け入れることは特権です。天使でさえ、神が私たちを通して何をなさっているかを知ることができるのです。パウロがここで語っているのは、まさにこの計り知れない特権です。

パウロはこう言っています。「わたしは獄中で、あなた方のために苦しんでいます。あなた方が神のこれらの偉大な秘密を知るようになるためです。」そして、その秘密が広められました。それから2000年近く経った今、パウロはオーストラリアのスプリングヒルに教会があるなどとは想像もしていませんでした。彼はこの場所のことを一度も聞いたことがありませんでしたが、私たちは今、彼の手紙を読んでいます。彼の管理職の成果は、神の栄光のために、世界中で宣言されています。神は単に奥義を明らかにする方であるだけでなく、特にご自身の奥義を私たちに明らかにし、私たちが神を誇り、礼拝し、従うようにしてくださるのです。皆さん、今週は、神がご自身について明らかにされたこれらの奥義のいくつかを読んでみることをお勧めします。

今週、御言葉を通してキリストに出会い、キリストを知り、信頼されるようになることで、それがあなたの糧となりますように。アーメン。さあ、立って祈りましょう。天におられる私たちの父よ、あなたの御言葉に感謝します。

神よ、あなたの計り知れない知恵に、私たちは感謝します。それは私たちの力では決して測り知ることのできないものです。私たちには計り知れないほどですが、御言葉を通してご自身を明らかにされたことに感謝します。神よ、生ける御言葉を通

して、あなたがこれからもご自身を明らかにされ、日々私たちが必要とする光と命となられますよう、祈ります。特に、神の御言葉に苦しんでいる人々のために祈ります。

父なる神よ、彼らが今週聖書を開いて、あなたの御霊によって彼らと出会ってくださいますように、心からお祈りいたします。そして、神の御言葉への敬虔な渴望を、ただ読むだけでなく、従い、それによって変えられるような渴望を彼らにもたらしめてくださいますように。そして主よ、私たちは、家族や友人の中にいる、まだ信仰に至っていない人々、御言葉を聞いても理解できない人々のために祈り続けます。主よ、彼らが御言葉を見ても理解できないところに、あなたが恵みを与え、彼らに啓示を与えてくださいますように。彼らもイエスの生ける主権の下にあり、あなたの奥義によって養われますように。

今日も御言葉をありがとうございます。私たちの人生に良いものを与えてください。あなたの尊い御名によってお祈りいたします。アーメン。

////////////////////////////////////
We would be glad to provide any information you want re:-

→ becoming a Christian

→ accessing an online course in Christianity Explained

Send your email to: office@CityTabernacle.com
////////////////////////////////////
